

市民フロンティア



URL <http://www.cskobe.com/> E-MAIL info@cskobe.com 発行人：中村順子 編集人：梅木利恵

2008年度 第3回理事会を開催

中間決算期につき、スタッフからも活動報告

10月31日(金)午後2時15分～午後4時45分、第3回理事会が、東灘区民センター 会議室にて開催されました。同会は足立、石川、坂本、末村、中村厚子、中村順子の各理事と、委任状による金芳理事の出席を得て、計7名全員出席にて成立し、以下の議案が可決・承認されました。また、松下監事のほか、活動報告をするスタッフを含め7名が陪席しました。

【決議事項】

1. 『上期決算』の件

決算額は、経常収入3,601万円、経常支出3,192万円、収支差額409万円、当期正味財産6,609万円でした。正味財産は、懸案のココライフ魚崎の固定資産譲渡により減少しています。審議の結果、以下の決算報告について議決承認されました。

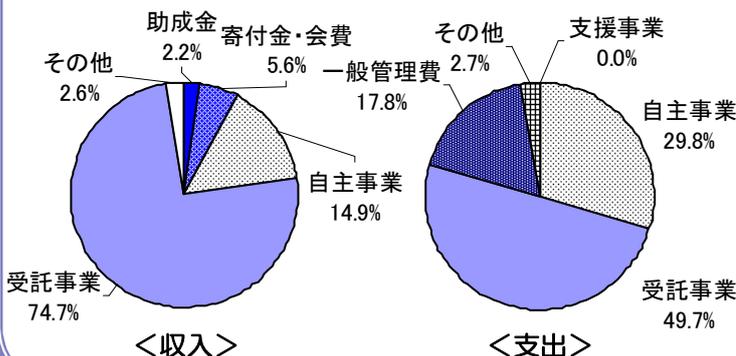
第10期中間決算報告 (2008/4/1～9/30)

<収入の部>

	額 (千円)	構成比 (%)
助成金	780	2.2
寄付金・会費	2,034	5.6
自主事業	5,379	14.9
受託事業	26,906	74.7
その他	919	2.6
収入合計	36,018	100.0

<支出の部>

	額 (千円)	構成比 (%)
支援事業	0	0.0
自主事業	9,507	29.8
受託事業	15,875	49.7
一般管理費	5,679	17.8
その他	863	2.7
支出合計	31,924	100.0



2. 『下期予算修正案』の件

以下のような修正予算計画が審議され、議決承認されました。

第10期修正予算計画 (2008/4/1～2009/3/31)

<収入の部>

	額 (千円)	構成比 (%)
助成金	5,073	7.1
寄付金・会費	3,763	5.3
自主事業	9,851	13.7
受託事業	52,545	73.3
その他	450	0.6
収入合計	71,682	100.0

<支出の部>

	額 (千円)	構成比 (%)
支援事業	1,000	1.4
自主事業	10,123	14.1
受託事業	47,348	66.1
一般管理費	11,051	15.4
その他	2,102	3.0
支出合計	71,624	100.0

3. 『中期計画策定』の件

理事長より、理事会事務局付理事による部会開催の結果、CS神戸としてもっと大きな位置づけの、NPO界に巨る枠組みで検討すべきであり、内部状況のみで策定できる状況でなく、時間をかけるという結論に至ったとの報告があり、異議申し立てなく承認されました。

【報告事項】

1. ココライフ魚崎建物権利移転登記完了の件

2. くるくる発電所の施設移転の件

くるくる発電所の有効活用について以前より検討していたが、福祉目的使用を実施すべく、足立理事の提案で建築中のグループホーム「ケアウイング弓の木」の屋上に移設されることになりました。

3. JR住吉駅前駐輪場のコンペ結果の件 (7頁参照)

4. その他事業報告について (各セクション担当より)

5. 下期新規事業の件

① ひようごボランティアプラザ中間支援活動助成

2月12日はプレシンポジウムを皮切りに、人材育成と就労プログラムを企画。(7頁参照)

② NPO塾

チャリティ・プラットフォームの助成金事業。

③ いきいきソーシャルプログラム

アドバイザー事業とCB事例集の作成を行う。

(理事会事務局：梅木利恵)

第13回 夏のスタッフ研修会報告 後編



理事とスタッフがテーブルについて

2008年9月23日(火)に実施した夏のスタッフ研修の報告は、9月25日発行の通巻第53号で、石川両一理事の論文を特集した形でご報告しましたが、

今号では後編として、その他の理事の発言の要旨等を限られた紙面の中でまとめてご報告します。

【発言の骨子】

1. 社会の動向とCS神戸（石川両一理事）

（通巻第53号の特集記事を是非ご覧下さい。）

2. NPOの原点は何か？（金芳外城雄理事）

NPOの5原則とは、①自主性 ②社会性 ③無償性 ④創造性 ⑤継続性。

100年の町づくりの基本は、まちづくりセクター（公共・町づくり・市民・民間）で分離して考えなければならない。

復興危機管理の5つの視点とは、復旧は5年で、まちの再生は5つ（①住宅 ②ライフライン ③医療・福祉 ④暮らし、中でも中小企業 ⑤学校教育）のセットが必要であり、100年計画が肝要。まちそのものをどうしていくのかという視点が必要である。

地方分権の視点とは、地域を愛する人がまちをつくる。

3. 私の思いとCS神戸（中村順子理事長）

CS神戸の目指すものとして、新しい公の領域として、共助を文化にして高めていきたい。

スタッフに対しては、マルチプレーヤーへの期待があり、個人でもネットワークを広げて欲しい。指定管理事業は4年単位であるので、次のことを考え5年先の戦略目標を立てたい。

研修会の後、理事会の責任で中期戦略委員会を立ち上げ今後の展望を可能な限り明らかにしていく。

4. 企業から見た問題解決方法（足立 勝理事）

中小企業もNPOも人材育成が重要になる。

幕末の転換期並みにNPOにも中小企業にも転換期にある。第二ステージに来ている。真剣に考えないといけない。

①4つのじんざいと4つのしごと

②ゴールは地域社会満足・利用者満足（顧客満足）

世の中

理念

○ 人材 仕事	◎ 人財 志事
× 人罪 死事	△ 人在 私事

自己実現

自分

人を活かすということが大事。

5. 私の見たCS神戸（末村祐子理事）

今は次の10年の第2ステージに差し掛かっている。理事は、個人の気持ちや感情と社会の仕組みをつなぐ仕事を、事業を通して、スタッフとコミュニケーションをとりながらやっていかなければならない。

歴史と知識情報をもって、CS神戸スタッフ・理事・組織が、次の世代が引き継げる物語を描いていく役割がある。それが社会に対する変革、メッセージにつながる。

6. 監事から見たCS神戸（當間克雄監事）

今ある仕事の取捨選択が大切だと考えている。経営戦略には、やらないことを決める、ことも戦略である。メリハリをもっとつけるべきではと思う。監事という立場からの感想である。

NPO大学においては、バランススコアカードを導入して経営計画をたててもらおうが、その質は年々、向上しており、リーダーも育ってきているのではないかと思っている。CS神戸に対しても、3年後、5年後の絵を描いてもらいたいと考えている。

NPOに対する企業の理解はまだまだ低い。CS神戸でも大手企業には認知されていない。NPO側にも襟を正す部分があると思う。



金芳理事

足立理事

末村理事

當間監事

【役員現職（左記に写真掲載役員分のみ）】

足立 勝（神戸介護ケアウイング代表取締役）

金芳外城雄

（神戸学院大学防災・社会貢献ユニット 専任教授）

末村 祐子

（大阪経済大学客員教授、NPO・NGO Walker 発行人）

當間 克雄（兵庫県立大学経営学部教授）

（理事会事務局：梅木利恵）

【市民活動サポート基金】

助成金交付の4団体が決定！！

市民活動サポート基金は、今年度初めてテーマを設定して助成団体を公募しました。テーマは「小規模作業所のNPO法人化」と「地域の居場所に関する活動」の2つ。11月13日（木）の選考委員会でプレゼンテーションをしていただき、4団体が決定されました。以下、交付団体のご紹介です。

小規模作業所 飛行船

理事長：宗保 栄さん
地域：神戸市灘区
金額：50,000円
用途：改装費の一部

重度知的障害者と言われる人々を中心に受け入れる小規模作業所として、06年3月に立ち上げました。今年度、NPO法人格を取得するにあたり、現在ガレージとして使用している部分に内装工事を施し、事務室・看護室を兼ねた部屋に改装する予定です。運営が安定してきたら、スヌーズレン（光、音、におい、振動などを組み合わせたリラクゼーションを目的とした活動）のプログラムを拡大していきたいと考えています。



ひと休み こざくらちゃん

代表者：山崎 喜夫さん
地域：西宮市今津
金額：100,000円
用途：ボランティア交通費など

地域住民同士のつながりや付き合いが希薄になりつつある今、誰もが気軽に集える地域の居場所をつくりたい、という思いから「ひと休み こざくらちゃん」を立ち上げました。亡くなった母の家を使い、毎週木曜日 11～16 時の間、食事会を開催しています（12月現在はお食事＋お茶で400円）。介護中の方、独居高齢者の方、近所のスポーツクラブのインストラクターなど様々な年齢の方が来られます。皆さんもぜひお越し下さい！



放課後遊ぼう会

代表者：足立 典子さん
地域：宝塚市
金額：100,000円
用途：人件費の一部

宝塚市内の8市立小学校において、定期的に放課後の遊び場を開催しています。泥んこ遊びやボール遊び、鬼ごっこや大工遊びなど、子どもたちがいきいきと遊べる場を1回でも多く提供しようと、保護者や地域のボランティアと、プレイリーダーという専門職のスタッフが協力し合って運営しています。特に仁川小学校においては、赤ちゃんから大人まで誰でもが集える「仁川遊ぼうひろば」を月2回程度実施しており、異世代交流の場としても賑わっています。



NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん

の～んびりサロン

理事長：岡本 碩也さん
地域：神戸市須磨区
金額：100,000円
用途：ボランティア謝金など

「困ったときはお互いさま」の精神に基づき、10年前から高齢者在宅福祉サービスに取り組んできました。「の～んびりサロン」は介護予防活動のひとつとして、地域の高齢者の方の一軒家をお借りして今年の9月よりスタートし、毎回10名程度の方が参加してくださっています。持ち寄ったお弁当を食べていましたが、皆の希望で11月から手作りの食事サービスを始め、昼食を楽しく召し上がっていただいています。



（人材交流情報セクション：飛田敦子）

「NPOにおける次世代へのバトン

どのように渡すのか？」—NPO塾 in 兵庫 開催—

NPO法の施行から10年、法人数は増え続け、現在、全国で37,000団体を超えるまでになっています。その一方で、組織内やNPOセクターとして、どのように次世代を育て、バトンを渡していくのか、という話題も耳にするようになりました。そんな中、11月16日(日)に開催されたのが「NPO塾 in 兵庫」。東京のNPO法人チャリティ・プラットフォームおよびNPO法人NPO事業サポートセンターが人材育成を目的として全国的に行っている「NPO塾」に対し、CS神戸が「NPOにおける次世代へのバトン」というテーマとプログラムを提案し、開催が実現しました。

参加者は兵庫県下の中間支援NPOおよび災害支援NPOのスタッフを中心に27名。東京からは、佐藤大吾さん(チャリティ・プラットフォーム理事長)や田中尚輝さん(NPO事業サポートセンター理事)にもお越しいただきました。進行は川中大輔さん(シズンシップ共育企画代表)にお願いし、震災直後からNPO活動をスタートさせた第一世代、震災後数年たってからスタッフとして参加したり、NPOを立ち上げたりした第二・第三世代が、「NPOの次世代育成」について話し合いました。



20代~70代の層の厚みを組織力に

前半は第一世代と第二・第三世代別のワークショップ。

①伝えたいこと・引き継ぎたいこと、②不安・懸念、などをそれぞれの立場から出し合いました。

①では「情熱やミッション」、「ネットワーク」、「企画立案能力」という答えが多く、②では「本当に引き継いでくれるのか」、「将来の生活を考えると不安もある」など、組織内ではお互いに言いにくい(?)ような本音も聞かれました。意見を共有した後は、次世代リーダー育成に向けて、団体として、またセクターとして、どのような場や機会が考えられるか、アイデア出しを行いました。

参加いただいた方からは、「第一・第二・第三世代が共に、次世代育成について議論できたのは有意義だった」、「団体やセクターも重要だが、個人がきちんと考えることも重要」、「今日はアイデアの共有までだったので、今後の具体化が課題」など、貴重な機会になったという感想とともに、今後の展開を期待するコメントも多く寄せられました。それらの意見を踏まえ、主催者として今後どのように展開していくのか、現在検討中です。乞うご期待! (人材交流情報セクション: 飛田敦子)

生き方と働き方をめぐって

— 特別な休暇制度普及促進事業 —

論壇

リーマンショックから始まった不況の波は世界中を駆け巡りました。企業の倒産や業績悪化が連鎖的に発生し、雇用の喪失と税による企業救済が“第2波”として襲って来ました。

もしかすると、この不況が深刻化・長期化するとワークライフバランスも肩身が狭くなるかもしれません。CSR(企業の社会的責任)も好況期には喧伝されますが、業績連動型の側面もあるためこの先どうなるか分かりません。けれども、昨年度から兵庫県内でも実施している「特別な休暇制度普及促進事業」(以下、「特別休暇」)は私たちに多くのことを伝えていきます。たとえば、社内に「●●休暇制度」があるとします。それによって休暇は取得できますが、数日~数週間の休暇で仕事と生活の調和が実現するものでもありません。

いくつかの企業が導入を始めた特別な休暇制度(ボランティア休暇、リフレッシュ休暇など)はあくまでもスタートに過ぎません。休暇制度の導入とは、経営者、人事・総務の担当者、そして従業員が一体となってコミュニケーションがなされた結果でもあります。互いの想いを述べ合うことは働き方を振り返ることにもつながるので、組織の活性化につながるかもしれません。休暇制度が出来たことで満足せず、そこに至るプロセス、休暇をいかに活用するかということが何より大切だと、経営者セミナーや体験プログラムなど「特別休暇」のプログラムが示しています。

現在、終身雇用制度が崩壊して、全雇用者に占める非正規雇用者の割合は30%を超えています。私たちはそのような時代を生きています。生き方と働き方に自己選択が求められ、さらにはそこから生じる結果に自己責任すら強いられます。でも、それだけでは殺伐とした世の中となってしまう、「適者生存」どころか「強者のひとり勝ち」となります。それを防ぎ、社会の多様性を保つためにも「共生」が唱えられ、その担い手や仲介者としてNPOの存在がいよいよ欠かせなくなってきました。「特別休暇」の事業をNPOが担っているのは、様々な人と価値観の会おうNPOであればワークライフバランスにも指針を与えられるからです。

「あなたはどのように生きたいのか」。その問いは、「特別休暇」という事業が私たちひとりひとりに向けたものです。世界同時不況とも言われる今、生き方と働き方を見直す好機なのかもしれません。

《完了報告:「特別休暇」の取り組み》
(10~11月)

10/9

企業経営者セミナー(97名参加)
講師: 小室淑恵さん
企業担当者セミナー(50名参加)
「だらだらダラリを見つけ出す」

11/7・8

体験プログラム(のべ1,500名参加)
「つかぐちの祭り 2008」
事務局: NPO法人ASUネット



10月9日企業経営者セミナー

(担当 菅 祥明)

会社から地域への橋渡しを目指して

— 快適セカンドライフ出前セミナー —

からお声がけいただき、10月21日（火）に“出前”の運びとなりました。

まずご登場いただいたのは、社会保険労務士の立田英雄さんで、テーマは「セカンドライフとお金の心配」。厚生年金制度については、最近よく騒がれているが、制度としてはまだ大丈夫。お金の心配も大事だが、現職中から、仕事上だけではない多様な人との関係をつくっておくことが大切です、というメッセージが印象的でした。

続いては「家庭・地域の良い人間関係」。講師は、キャリアコンサルタントの木村純子さんで、良い人間関係構築のポイントをお話いただきました。特に、聴き手と話し手に分かれての、2人組ワークショップでは、あちらこちらから笑い声があがり、大変盛り上がりました。

最後は「企業人OBの仕事と余暇活用」についてワラビーの村上センター長が担当し、有償ボランティアで多少の収入を得る方法や、退職後に趣味を活かしてコミュニティ・ビジネスを立ち上げたシニアの事例などをお話しました。

90分という短い時間でしたが、それぞれのテーマのエッセンスをギュッと詰め込んだ内容になりました。今後も「会社から地域への橋渡し」を目的に、セミナーの導入を働きかけていく予定です。（支援事業セクション：飛田敦子）



初のセミナーに聞き入る受講生

CS神戸奨励賞獲得！

— NPOと企業のコラボレーション —

平成20年度ひょうごボランティア基金による「企業・NPO協働奨励事業」に、CS神戸の東灘区民センター小ホールの自主事業である「公文グループ企業とNPOとのネットワーク・コラボレーション展開による地域の高齢者を対象にした認知症予防事業」が2008年11月30日に開催された第9回ひょうごボランティア・スクエア-21で表彰され、奨励金30万円が、CS神戸に授与されました。

表彰式には、(株)くもん学習療法センター代表取締役社長大竹洋司さんにも来ていただき、CS神戸と公文グループの双方に表彰状が授与され大変感謝しています。

この奨励金は、兵庫県内のNPO法人等がCSR（Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）を真摯に推進している企業と協働し、地域社会の課題解決や、まちの活性化に向けて取り組んでいる事業に奨励金が交付されるもので、公文グループとの5年間に渡る下記のような5事業に対する協働が高く評価されたものです。

1. 人材の交流（相互のスタッフおよび講座講師の派遣） 2. 企業内の会議室の開放 3. NPO スタッフの企業研修の受け入れ 4. 企業の余剰資材/備品の提供（カレンダー事業・事務機器） 5. 2006年5月から開始した簡単な読み書き、計算で脳を活性化する「脳の健康教室」を開講。

この教室は健常な高齢者が加齢による脳機能の衰えを防ぐための楽しい「時」と「場」を地域に提供し、高齢者が健康でいきいきと生活できる明るくて活力ある地域コミュニティを目指す事業です。これまで一緒に手伝っていただいている地域のボランティアスタッフの学習サポーターさんと、くもん学習療法センターの皆さんだけでなく、CS神戸スタッフ全員の力の結集により榮譽を授かり大変感謝しています。本当にありがとうございました。

（東灘区民センター小ホール：兵頭修也）



誇らしい記念写真をパチリ！

「トライやるウィーク」 延べ10人受入れ



サイクルピットでも「トライやる！」

CS神戸としては、1998年から受入れをスタートしたトライやるウィークですが、東灘区民センター小ホールでも初の「トライやるウィーク」受入れを実施しました。期間11月10日（月）～11月14日（金）のうち3日間、魚崎中学校から女子生徒3名と男子生徒2名、住吉中学校から女子生徒1名と男子生徒4名の合計10名を迎えました。

館内の清掃、接客での挨拶、火災による施設利用者の誘導・避難訓練参加、そしてNPO団体の説明など、地域の公共施設としての役割を体で体験していただきました。

お客様を相手にする仕事を体験できて良かった（Kさん）、避難訓練など普段経験できなかったことができてうれしい（Tさん）、NPO団体の活動についての話をさせていただきとてもためになった（Uさん）といった感想をもらいました。併設している魚崎児童館に「トライやるウィーク」として来ている仲間と一緒に、児童館のこともあわせて学ばれたようで、小ホールのスタッフにとっても貴重な体験となりました。（小ホール：兵頭）

活発な議論、次年度の活動も安泰 !?

— 交流会と幹事会の開催報告 —

高齢者の介護支援をしたい ②障がい者への支援について協力したい ③高齢者の男性はコミュニケーションが苦手、新サービスの検討が必要では? ④グループホームを創りたいので、後見制度を勉強中 ⑤NPO SCは、過去の実績を利用し、リーダーシップを発揮し高齢者福祉をさらに開拓してもらいたい 等の活発な意見を参加者からいただきました。

ボランティア同士の「face to face」の交流ができ、すばらしい会となりました。今後、さらに連携を深めまさに地域のトータルケアに貢献していきます。

2008 年度第 3 回トータルケアシステム推進協議会幹事会

上記のボランティア交流会に引き続いて、実施しました。

●報告事項について

・情報誌「NPOサービスセンター第8号」の発刊。第5期ユニメイト講座(9月末~10月中旬に実施)の終了報告。アンケートの中に、“困難もあるがこの講座を続けて欲しい”との温かいお言葉をいただきました。会員各位のご協力に感謝しております。NPOサービスの受発信は、3ヶ月間で、アクセス総数31件、情報提供12件、NPO団体への紹介15件、NPO SCが4件。当該分野はさらに増加することでしょう。

・兵庫の16福祉団体等で結成されたHYOGON福祉ネットが、介護保険枠外サービスの啓発活動を行うことになったとのことで、NPO SCとの重なりもあることから、創設前の緊密な話し合いが望まれたところでした。今後、①HYOGON福祉ネットのパンフレットにNPO SCの役割を記載すること ②東西で連携を行っていくため、行政への働きかけを行うべきとの意見がありました。

●協議検討事項について

・推進協議会会則の事務局案について、①トータルケア推進協議会は、協議体であり上部組織を意味するものではない ②NPO SCはトータルケアシステムの理念に基づきあらゆるケアを遂行する組織体であり、会員制をもって活動する ③従って、当該会則案を再考察することになりました。

●NPO SCの今後の活動について

・①さわやか福祉財団との共同による障がい者支援を目的としたフォーラムを平成21年3月7日(土)午後、午前中は総会と幹事会を開催 ②東灘区の復興住宅支援プログラムに助成金を申請 ③「団塊の世代等による地域のコミュニティに関する事業」につきWAM((独)福祉医療機構)に助成金を申請、神戸市社協からも推薦されており、来年度プロジェクトとして期待高し 以上のような状況ですので、ご支援いただければ幸いです。
(地域事業セクション・神戸東部NPOサービスセンター：小林清隆)

今年で4回目の『彩都まちそだてネットワークミーティング』を12月7日に彩都西中学校の多目的室等をお借りして開催しました。これは彩都に関わる方々の情報の共有と交流を目的にした会合です。今年は各サークルの活動紹介・日頃の練習成果の発表・体験コーナー等、文化祭的要素をもたせたサークル主体の「発表会」を行いました。

彩都に住む方々に広く呼びかけ、見に来ていただくことにより、サークル等の活性化につなげ、そして彩都の街をさらに元気づけていきたいとの思いから企画しました。3カ月前に渡る準備の甲斐あって19団体の出演と、そし



未来の“まち”を描いているのかな?

彩都にお住まいの方など約250名に見に来ていただきました。各サークルには出演だけでなく事前の準備、広報活動や運営等に主体的に関わっていただきました。まち開きの4年9カ月前には何もなかった「つながり」が、こんなにもたくさん生まれた事実で改めて驚かされるとともに、早くも来年への期待の声がたくさん寄せられ、大変感謝しております。



和やか かつ 活気ある交流会



彩都つながりの“みんなが主役”

報告
2/12

しごとを通じて地域に貢献、

人生いきいき！ —生涯現役シボジウム—

社会的課題を市民の知恵と経験を持ち寄り、生きがいを感じながら仕事として解決をめざす“ソーシャルビジネス”スタイルを提案するシンポジウムを神戸市勤労会館にて午後1時30分から、(財)神戸いきいき勤労財団の主催、CS神戸の企画運営で開催します。

参加費無料、定員300名で事前予約が必要です。お申込は(財)神戸いきいき勤労財団生涯現役支援課(電話078-251-5561、締切1/30(金))まで。

第一部 <基調講演>

堀田 力(つとむ)さん(財)さわやか福祉財団理事長、弁護士

第二部 <神戸のソーシャルビジネス事例紹介>

吉富志津代さん(NPO法人多言語センターFACIL 理事長)

小倉 譲さん(NPO法人しゃらく理事長)

足立 勝さん(株)神戸介護ケアウイング代表取締役

※コーディネーターは、CS神戸 中村順子理事長

報告
2/19

CSRの普及・啓発

— マッチングシステムフォーラム開催 —

企業とNPOの協働を促進するマッチングシステムは、2月19日(木)にフォーラムを開催します。このフォーラムも3回目を迎えます。毎年、企業・NPO、さらには行政、労働組合、社会福祉協議会からも参加をいただいています。

今回はマッチングシステムの取り組みを、ある種のストーリー仕立てで発表する予定です。2006年度の人、2007年度の人、そして今年度の情報や協働イベントなど、年を経るごとに重点目標は推移してきました。それらが地域にどのようなインパクトを与え、企業・NPOの双方も何を成果や課題と感じたかといったことを紐解いて行きます。

会場は例年と同じく全労済兵庫県本部のご協力をいただき、その大会議室で行ないます。開場が13時、閉会は17時半の予定です。報告・発表だけでなく出会いの場とするために、参加者間の意見交換と交流が行なえる企画も考えています。

フォーラムの目的のひとつが「CSR(企業の社会的責任)の普及・啓発」です。大企業の取り組みのほか、中小企業の事例も取り上げて「我が社もCSRに取り組もう!」と気づいていただける場にします。そのパートナーがNPOであるなら、CSRは社会に欠かせないものとして認知度を高めていくことでしょう。2月19日(木)は全労済兵庫県本部へお越し下さい。

(担当:菅 祥明)

NPOと指定管理のゆくえ

—CS神戸が指定管理者に選定される—

CS神戸はこの度、JR住吉駅駐輪場の指定管理者に選定されました。現場スタッフと法人が一丸となって事業に取り組んだ成果でとても喜ばしいことですが、考えるべきことも多くあるように感じています。

まず、「指定管理者制度は成果を挙げているのか」という疑問があります。地方分権、行政コストの削減、民間活力の導入という目的をもつ制度ですが、それらの検証が行われていないと思われるからです。さらに「NPOにとって指定管理者制度はいかなる存在か」という問いもあります。これはむしろ、NPOから積極的に自己評価を示す必要があり、コスト面だけではない多様な成果も提示することが必要です。

そのように書くには理由があります。今回、駐輪場の指定管理者は大幅な入れ替わりが見られたからです。企業・NPO・外郭団体等による苛烈な競争が行なわれたことから、指定管理者制度は新たなステージに入ったと言えるでしょう。施設管理においてNPOの独自性や「強み」を発揮することが大切だと思います。サイクルピットはこれからも市民の視線に立ってより良いサービス提供をめざします。

ところで、神戸市の「広報こうべ」(9月号)には厳しい財政状況が載っています。財政健全化法が施行されましたが、神戸市はそれに該当する可能性があるようです。前年度決算から「資金不足比率はいずれもが、健全化に関する基準を下回っています」と記しています。指定管理者制度を含む行財政改革のゆくえがますます注目されます。

(地域事業セクション・駐輪場:菅 祥明)

新人スタッフのご紹介

藤原 航 (ふじわら わたる)



はじめまして、10月より理事會事務局で働いております。

月の半分をCS神戸で、残り半分を(特活)あしやNPOセンターで働いております。大阪の山並み景観保全のNPOで働き始めてから、「NPO」の世界に入り早7年が過ぎているにも関わらず、日々疑問にぶつかる毎日です。

大学卒業後、『折角なら、「よし(き)こと」をする仕事したい』と思い、踏み込んだ世界でしたが、現在に至るまで、個人的には「よろし」と思う成果しか出せていないと感じています。

CS神戸の持つ歴史と活動から多くを学び、日々学んで行きたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

【有料コンサート】

1.17 メモリアルコンサート**“竹下景子さん詩の朗読と音楽の夕べ”**

震災から学んだ人と人との絆、共に悲しむ心、いのちと平和の大切さを、メッセージとして「詩」に託し、竹下さんの丁寧な朗読は毎年静かな感動を呼んでいます。是非、この時空間を味わいにお越し下さい。

日 程：2009年1月17日(土) 18:30～(開場18時)

会 場：神戸新聞松方ホール (JR神戸駅)

出 演：竹下景子(女優・朗読)、林晶彦(作曲・ピアノ)
鈴木一郎(ギター)

入場料：前売2,500円、当日3,000円 (全席自由席)

主 催：ぼたんの会実行委員会/復興支援コンサート実行委員会 (CS神戸もメンバーです)

※CS神戸で前売券の取扱いをしています。お気軽にお問合せ下さい。



【恒例行事】

13年目

ギフト・オン・ハート・カレンダープロジェクト

(実施期間:2008年12月～2009年1月)

神戸の復興住宅の高齢化率は40～50%に上り、社会との接点が少ないため、カレンダー類がなかなか手に入らないご家庭も多いのが現状です。2008年のカレンダーをお届けした際も、大変喜んでいただき、12月に入ると、「今年も楽しみに待っているのでもよろしくお願ひします」という声がたくさん寄せられています。

現在、昨年ご協力いただいた企業や各種団体の方々にカレンダー・手帳類の寄贈をお願いしています。そのほかの方で寄贈いただける方がありましたら、是非お願いいたします。同時に、配達のお手伝いをして下さるボランティアの方も募集しています。

皆さまのあったかいハートを…

寄贈は…

年内は12/26(金)まで、年明けは1/5(月)～1/9(金)までに

配達は…

年内は12/26(金)と、1/6(火)～15(木)までに

(理事会事務局：梅木利恵)



【無料イベント】

**響け！アフリカンドラムと
うおざきフェスタ**

日 程：2009年1月31日(土) 13:30～(会場13時)

会 場：東灘区民センター小ホール (阪神魚崎駅)

出 演：魚崎中学校吹奏楽部、自彊術、大正琴ほか

※問合せは、小ホール(電話 078-453-0151)まで

**会費・寄付をいただき、****誠にありがとうございました**

(期間 08年9/23～08年12/22、いずれも順不同・敬称略)
※トータルケアシステム、カレンダープロジェクトは別枠で取扱っています。

【会費】

足立 勝、於勢昌樹、榎本まな、星野裕志

【寄付・寄贈】

梅木利恵、国枝哲男、菅 祥明、更谷令治、中村順子、
飛田敦子、藤原航、村上義弘、にじのかけ橋、明治製菓

2008年度の会費納入がお済みでない会員さまへ

CS神戸の市民活動の応援を、引き続きよろしくお願いいたします。機関誌の定期配送や関係図書の特典などの特典があります。年末には、会員大交流会も予定しています。

【会 費】 個人会員 3,000円/年、

団体会員 10,000円/年

【振込先】 名義 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替口座 00950-2-144205

♪新規加入のご希望者も大・大・大歓迎です♪

編集後記

このところ、時が過ぎるのが速いこと、速いこと…

年を取ったせいなのでしょうかね？ 人生を振り返ったら、これからの人生より長いのかも？ 年末年始は、これからの自分を見つめるための時間を作らなくちゃいけないようです。R

**アルコール売切れ！****CS神戸会員大交流会**

2008年12月16日17:30～20:30に開催した、年に一度のCS神戸会員大交流会は、既会員の方、これを機会に入会くださる方など、総勢54名で親睦をはかりました。



ジャズ演奏にカントリーダンス、ハンドベル、懐かしのムーディー歌謡が流れると次々に今日だけの熟年カップルが誕生してダンスを… 皆さんあっぱれ！

初めて来られた方々も 飲めや歌えや♪大はしゃぎ！
お楽しみのプレゼント交換も大盛り上がり。ご覧あれ！
ダブルプレゼントをゲットしたNさんの喜びの図！

最後にはたっぷりあった筈のお酒類が売切れ～！
いやあこうも飲兵衛が集まるとは…さすがCS神戸！

来年は是非、貴方もご参加下さい。

(理事会事務局：梅木利恵)